

参加者アンケート集計結果

平成 31 年 2 月 16 日(土) 開催の本シンポジウムに対する参加者の評価や関心等を把握し、今後の参考とするため、アンケート調査を実施した。以下は、このアンケート調査の集計結果である。

1. 有効回答者数とその内訳(問Ⅰ)

シンポジウム参加者 108 名のうち、39%である 42 名から回答を得た。所属別の回答者数は表 1 に示す。

表 1.

所属	人数	割合
国立大学	3	7%
公立大学	1	2%
私立大学	28	67%
大学(記入なし)	1	2%
企業(教育関連)	4	10%
企業(その他)	4	10%
学生	1	2%

2. 本シンポジウムを知った媒体(問Ⅱ、複数回答可)

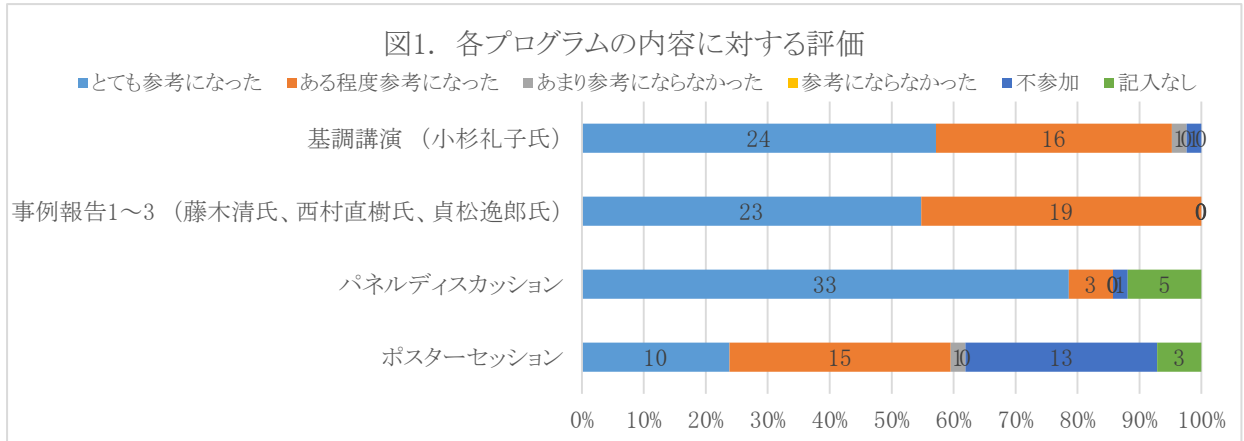
本シンポジウムを知った媒体に関する回答を表 2 に示す。

表 2.

媒体	人数	割合
メール	9	21%
ASAGAO のメール	6	14%
AP 採択校への eメール	8	19%
チラシ	2	5%
同僚・知人からの紹介	8	19%
その他	9	21%
記入なし	1	2%

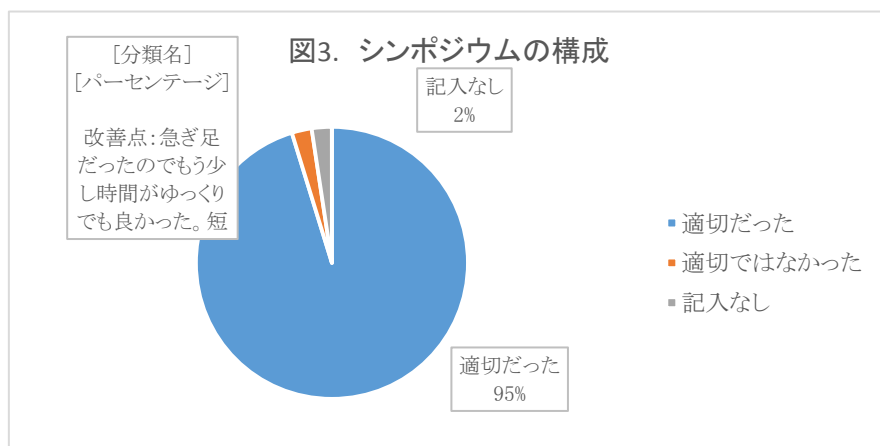
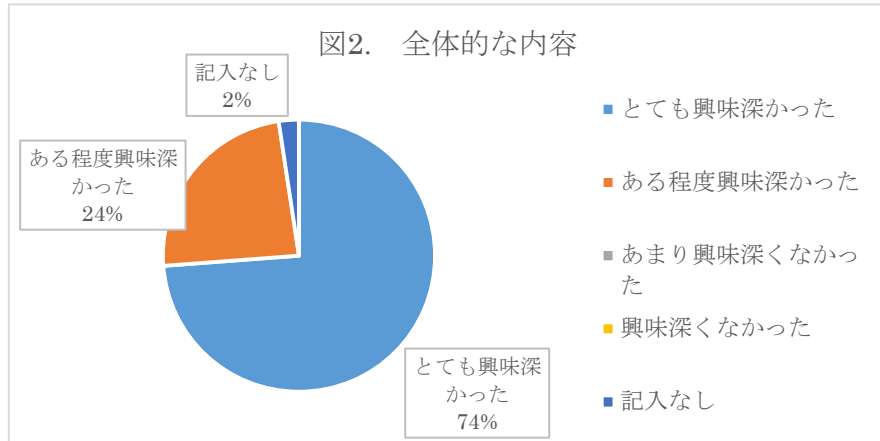
3. 各プログラムに対する評価(問Ⅲ)

各プログラムの内容が実際にどの程度参考になったかを尋ねた結果を図 1 に示す。

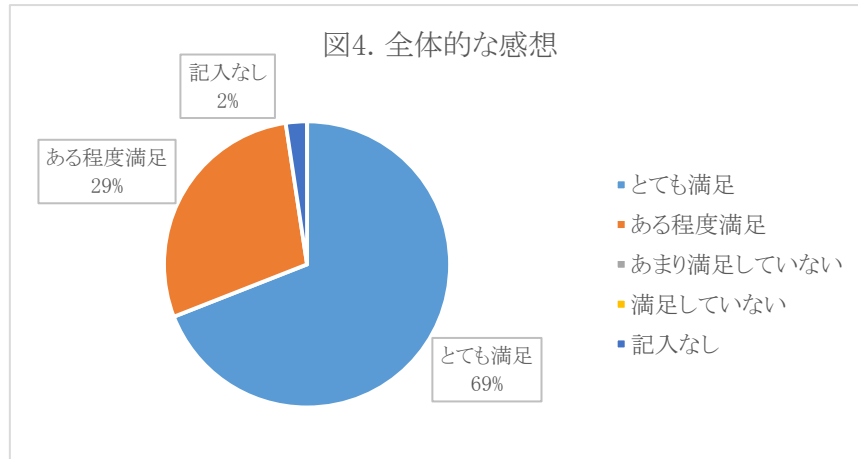


4. シンポジウム全体に関する感想(問IV)

シンポジウム全体を通しての感想に関する回答結果を図2~4に示す。



適切ではなかったと回答した方からの改善に関する意見は、「急ぎ足だったのもう少し時間がゆっくりでも良かった。短い時間で意見が飛び交いよく纏まったと思う。」であった。



5. 自由記述欄(問VI)

自由記述欄としては 15 件の回答があった。なお、表現形式を統一するため、記述内容は文意が変わらない程度に修正している。

- 十分な時間が確保され、かつ、有効的に構成されていた。よく準備された催しだった。(私立大学所属)
- 大学評価と企業評価、本当に悩ましいテーマだと思う。改めて考える機会を頂き感謝している。個人的には学生の国語・算数力の低下をどうするかが課題である。質問を出していたが、触れて頂けなかったのは非常に残念。基礎的な力が大事とニッセイCOMの貞松氏は言っていたのに・・・(私立大学所属)
- ニッセイCOMの貞松氏より、「企業にとっては負担」とはっきり言ってもらえて良かった。小杉先生の講演でもあったように企業の人材評価と大学の評価の違い、ずれはあるので、大学生を送り出す側の大学の自己満足にならないようなインターンシップを大学生に経験してもらいたい。(私立大学所属)
- 文科省の方のお話も聞け、普段聞くことがないので貴重な体験だった。もっと聞きたかった。お話で胸が痛かったのは、帯野様のパワーポイントだった。がんばります。(大学教員自身に社会人基礎力がない)また、最後の纏めであったように「学び直せない人間が落ちこぼれる」というのは本当だと思う。深澤先生の総括の仕方が非常に面白かった。(私立大学所属)
- パネルディスカッションが良い刺激(ヒント)になった。(私立大学所属)
- 産業界と教育界の意見が聞けてとても役に立った。(私立大学所属)
- ポスターセッションでもパネルディスカッションでも積極的に質問や意見を言える学生がいることが大きな成果だと思った。(私立大学所属)
- 企業人の「大学に関する事項」についての無理解がいくつかあると感じた。(国立大学所属)
- 卒後 10 年位、モチベーションが保てる教育システムが大切だと思った。リカレント教育のメニューをどれ位備えられるかが大きな大学の課題である。(企業)
- 最初の方は難しくて話についていけないか不安だったが、パネルディスカッションで自分自身が知らなかった事、これから役立つ意見が聞けた事が良かった。とても面白かった。実際にeポートフォリオ等が今後役立つと実感出来ていないが、自分の糧となることを信じて、振り返りを積み重ねていくべきだと感じた。成績ではなく、活動したこと、何を学んだかが重要なのだと気付かされたように思う。(私立大学 学生)
- 自分が思っていた内容と少し違っていた。でも全体的に濃い内容でとても参考になった。もっと多くの学生に

参加してほしいと感じた。(私立大学所属)

- 大学の 4 年間を持って(キャリア教育支援の内容を)就職、就社して「即戦力として活躍していく」というのは大変難しいと思う。＜社会が求める力＞という見方と学生が社会に巣立つまで＜待つ力＞も世の中に必要だと思う。(企業・教育関連)
- 両大学共、学生の方が非常に丁寧に詳しく説明されており、非常に参考になった。各大学の教育成果が学生さんの発表に十二分に表れており、大変良かった。(私立大学所属)
- 非常に元気を頂ける機会だった。本当に有難うございました。(私立大学所属)
- 浜名学長の「いろいろなツールで学生は成長を実感できているのか？」という学生への問いかけは肝に銘じて取り組みたい。(国立大学所属)
- 大学と企業双方の立場からのお話が伺えてとても興味深かった。大学から提供される情報を検討することで企業とのミスマッチを防ぎたいとする貞松氏のご意見、もっともだと思ったが、一方で大学側の採用内定率を左右されるかなりデリケートな事情がある。学内体制の見直しの中で学生に平常点が企業側に伝わることを周知できれば良いのだが。本学でも検討を重ねたい。(国立大学所属)